

コミュニティ・スクール通信

平成25年7月
東小田小学校
Tel 42-2027
Fax 42-5076

盛夏のみぎり、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、昨年度より東小田小学校コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の取組を始めました。正直、はじめは「手探り状態」でしたが、委員さんとともに熟議を重ねていくうちに、一歩ずつですが取組が深まっていきました。本年度も若干の委員の入れ替えがありますが、引き続き取組を進めていきます。

この「コミュニティ・スクール通信」では、皆様に取組の内容をお知らせするとともに、コミュニティ・スクールへのご理解ご協力を仰ぐ趣旨で発行していきます。



「みんなで育てることで、信頼の絆を深める」

東小田小学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会）が設置されましたが、私たち協議会委員の一年目の活動は、本協議会に「何を求められているのか」を探求する一年であったと思います。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置の趣旨や目的については、文献等によれば、「学校運営協議会を通じて、保護者や地域の皆さんのが一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となってより良い教育の実現に取り組むことがこの制度のねらいです。

また、地域の創意工夫を活かした特色ある学校づくりが進むことで、地域全体の活性化も期待されます。」と書かれていました。この裏を読むと、地域コミュニティが希薄になってきている現状があり、学校が孤立（閉鎖）している様にも読み取れます。確かに今、地域で子どもが何か悪いことをしたら、そのことを見た大人からの第一報（苦情）は「お宅の学校の子どもが〇〇をしていた。ちゃんと学校で指導をしているのか。」と学校に届くようです。どうやら、今は、子どもの知識の習得はもとより、しつけも学校がするように思われているようですが、以前であれば、子どもがなにか悪いことをすれば、その場で「こらっ」と叱り諭す地域の大人の姿や隣の子であろうとも叱る親の姿がありました。もし、この時、注意する側の大人と注意される側の子どもが知り合いだったら、また、学校と保護者、地域が相互信頼し合う関係であつたらどうでしょう。そう考えると、地域の大人と子どもの関係はもとより、学校、保護者、地域におけるつながりの希薄化が進む傾向にあるのは現実のようです。

この様なことは、東小田校区にはそうないと思いますが、学校はその拠点となり、学校、保護者、地域がともに協働しながら、みんなで子どもたちを育てること。つまり、子どもを核にすることで学校、保護者、地域の信頼し合いまどまることができると言えます。

そこで、今後、本協議会ではこの三者の相互信頼関係を築くため、まず、子どもと知り合うための子どもと地域や保護者との交流体験について、学校、保護者、地域の皆さんのお知恵をお借りし、協議していきたいと考えています。

「地域の子どもは地域で育てる」を協働し、相互信頼の絆を深めましょう。

平成25年度学校運営協議会委員さん



通学区域住民
佐藤 貴治 会長



通学区域住民
寺原 拓明 副会長



主任児童員
矢野 和子 委員



通学区域住民
石井 保幸 委員



通学区域住民
久保山 武士 委員



PTA 会長
内山 大輔 委員



PTA 副会長
猿渡 美絵 委員

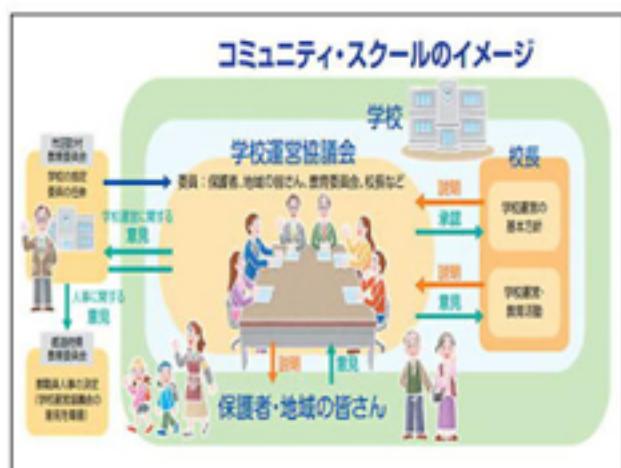


通学区域住民
小能見 深雪 委員



区長会代表
清水 正則 委員

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）とは



コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

コミュニティ・スクールには保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べるといった取り組みがおこなわれます。

これらの活動を通じて、保護者や地域の皆さんの意見を学校運営に反映させることができます。

昨年度の主な活動内容（年間5回開催）

<昨年度協力いただいた委員さん>



通学区域住民
行武 正義 委員



PTA会長
内山 大輔 委員



篠根保育所長
稲野 道子 委員



区長会代表
中島 茂喜 委員

◎ 熟議内容

- ・学校2学期制実施について検討
→2学期制は実施しない。
- ・保護者へのアンケート実施後、土曜授業実施について検討
→土曜授業は年間3回実施する。
- ・学校の経営方針について意見具申

◎ 「6年生ボランティア体験プロジェクト」への協力

- ・6年1組「地域との交流」
- ・6年2組「篠根保育所との交流」
→子どもと地域との「絆」が深まった。
もっと活動地域を広げて実施していく。

6年生「ボランティア体験プロジェクト」の活動から（平成24年度）

昨年度、6年生がボランティア体験を計画し、実行していくときに学校運営協議会の委員さんに協力していただきました。



『お兄ちゃん・お姉ちゃん達の劇を見て、小学校の行事におどろいていました。作った面をはめてとても楽しそうでした。』

＜様農保育所との交流＞



『子どもたちの態度がすばらしくお年寄りも感心していました。他の公民館にも広げてくれたらとの声が上がりました。』

＜安野公民館でのお年寄りとの交流＞

『子どもたちが考えたゲームを楽しそうにおじいちゃんおばあちゃんがしているのがとてもほほえましかったです。人暮らしのお年寄りの訪問ちょっと不安がありましたが、子どもたちのがんばりでとても喜ばれました。』



＜独居老人宅へ訪問した子どもの感想＞

ぼくは、ボランティア活動で森田さんという一人暮らしのおばあちゃんの家に行きました。最初はどきどきでした。でも、相手もどきどきしていると思ったので、ぼくががんばって一言しゃべったら、会話がはずみました。意外と話すとかんたんだなと思いました。ぼくが、ボランティアをして感じたことは、会話がはずむとぼくも楽しくなるし、相手も楽しそうだったので、いいなと思いました。あと、そうじをしたら、ありがとうと言ってくれたので、うれしかったです。何かをすればお礼の言葉一つで自分がうれしくなる。それがボランティアの価値だと感じました。



3年生総合「筑前町ものしり隊」の学習（平成25年度）

運営協議会の石井委員さんに教えていただきました。

ねらい



四三嶋のしし祭りについての話を聞いて、祭りに携わる方の苦労や努力を知る。



6月18日（火）の5校時になかよしルームでお話していただきました。実際にしし頭やビデオ、写真を持ってきていただき、充実した学習となりました。途中ではっぴに着替えての実演もあり、子どもたちは真剣にお話に聞き入っていました。



＜子どもの感想から＞
たくさん石井先生からたくさん教えてもらつてうれしかったです。おもしろおもたいって気がつきました。おしいいれをやってお米がみのったり、けんこうでいられるといいと思いました。ぼくもやってみたいです。